

月刊「ワークホームだより」 1月号

発行:2019年 12月 25日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



医療関連サービスマークの更新について

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

先月からゴトウ・アズ・プランニング社（以下「GOTO」という。）との間でクリーニング事業の見直し協議を進めています。ワークホーム高砂からの中心的な提案は、来年度に迫っている「医療関連サービスマーク」の更新申請を行わないというもので、今後は病院寝具類を取り扱わずに、例えば、福祉施設の洗濯物などを中心に扱う工場へと方向転換を図りたいという内容です。

そもそも医療機関における病院寝具は、看護や給食と同様に医療の一環として、常に安心・安全で衛生的な寝具類の提供が求められています。昭和33年6月には基準寝具に対して社会保険が適用され、昭和37年6月には外部委託も認められ、現在では、病院として当然整備すべきものとして入院基本料に含まれています。そして、医療機関の外部委託基準を担保するため、平成2年に「一般社団法人医療関連サービスマーク振興会」が設立され、「医療関連サービスマーク」が制度化されました。ワークホーム高砂は、設立時から病院寝具類の洗濯業務基準を満たす工場として認定されていますが、「原則として病院の洗濯物のみを取り扱う専用施設であること」という専用工場の基準を十分に満たしていないという課題が以前からありました。

12月2日に開催されたGOTOとの「経営会議」においては、この課題を避けることなく真正面から議題として取り上げ、安杖社長に対して問題提起をしている状況です。新年度にはGOTOとしての基本的な考え方が示されることになっています。

なお、その他に、①シーツ作業を中心とする重労働からの解放を目的とする機械化の推進 ②職員の事務時間を確保するためのクリーニング作業時間の見直し（開始時間9時30分、終了時間16時30分の提案） ③利用者の工賃に直接関係する委託料については、最低賃金のアップ率を委託料の見直し基準とするなどの提案も同時に行っています。安杖社長からは、①～③については、医療関連サービスマークの更新有無によって方向性は大きく変わるとの意見をいただいています。

2020年は、新納豆作業場の開設をはじめ、クリーニング事業の見直しなどワークホーム高砂の経営にとって大きな転機となる年です。保護者並びに関係各位の一層のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い致します。



1月の予定

1月4日(土)	仕事始め・利用者全員出勤
1月6日(月)	利用者全員出勤
1月8日(水)	作業・工賃支給日
1月15日(水)	サークル
1月22日(水)	会議日
1月26日(日)	保護者会役員会
1月29日(水)	清掃

※会議日は15時終了、それ以外は17時終了です。お迎えの方はご注意ください。

新任職員紹介

新たに2名のパート職員さんが働いてくれています。砂川さんは、11月11日からクリーニング作業と希望山荘日笠の朝の食事づくりなどを週3日お願いしています。砂原さんは、12月2日からクリーニング作業を週2日お手伝いしていただいています。



すながわ しのぶ

私は歌う事が好きで、今までコーラスやボイストレーニングに通った事もあります。旅行も好きで年に何回か主人と行きます。好きな食べ物は甘いもので、特にあんこ入りが好きです。



すなはら のりこ 砂原 紀子

12月から一緒にお仕事させていただいています。趣味は野菜作り、好きな食べ物はイチゴとコーヒーです。

退職職員

サッカーチーム「バンディオンセ加古川」に所属しながらワークホームとオリーブの家で支援員をしてくださった吉中さんが、12月末で退職されることになりました。2年半、ありがとうございました。



よしなか なおと 吉中 波緒人

約2年半お世話になりました。ワークホームで得た経験を糧に今後の人生に活かしたいと思います。みんなとの出会いは一生の宝物です。また、ワークホームに遊びに来ます！

楽しく学んで！曾根小学校4年生福祉教育

12月3日と4日、曾根小学校4年生が福祉教育の一環としてワークホームにやってきてくれました。開設して間もない頃より10数年、毎年きてくれています。今年は障害を楽しく学んで知って欲しいという思いで、障害疑似体験等を取り入れながら、できるだけ分かりやすく障害は特別なものではないという事を説明しました。今後はもっと地域への啓発活動ができればと思っています。(楠)



今月の担当は矢野でした

サークル活動

12月はスポーツと文化に分かれてサークルを実施しました。スポーツでは、風邪に負けない体力づくりを目標に30分程度ウォーキングしました。文化では、クリスマスの塗り絵や絵を書きました。15日に行われたクリスマス会で踊るパブリカの最後の練習も行いました。(楠あ)



お昼の新たな取り組み

11月下旬から、昼食後に生活習慣病予防の為、玉木さん、中岸さん、木本さん、増田康孝さん、小林さんと施設周辺を約15分ほど散歩しています。散歩中には「寒いなー」「気持ちいいねー」等の話をしながら肌や目で季節を感じながら行っています。今後も、利用者の様子を確認しつつ支援していきたいです。(重里)



ばんたんゆうあい文化祭

出場する立場から見る立場へ

11月22日、姫路市文化センターで行われた第28回ばんたんゆうあい文化祭に池上さん、岡本さん、立岩さん、光宗さん、森川さんの5名と職員の矢野支援員と桂で参加してきました。昨年は『世界に1つだけの花』を合唱したりハンドベルをして出場する立場でしたが、今回は見学のみでの参加でした。昨年と比べて緊張感はなくリラックスして見る事が出来ました。来年はみんなの声次第では出場する立場になるのかな…(桂)



年内最後の料理クラブ

12月18日、中岸さん・梅原さん・光宗さんと宮本(み)の4名で、今年最後の料理クラブに参加しました！今回はお雑煮、エビのゴマ揚げ、梅酒ゼリー等のお正月メニューに挑戦！！皆さん、『先生！次何しますか？』『僕は、洗い物します！』等、積極的に参加されていました。美味しい料理を教えてもらいながら、先生方と和気あいあいとお話することが出来て、毎回良い気分転換になっています♪(宮本み)



歯磨きで一生守ろう自分の歯！

11月28日、加古川歯科保健センター歯科医師による歯科健診がありました。健診の目的は、口腔内状態の観察と、虫歯や歯周病を初期のうちに発見することです。初期の歯周病や虫歯は痛みが出ないことも多く、なかなか気付くことが難しい事も。「虫歯がありますね。」と言われる利用者さんや、「きれいなお口の状態をしていますね。」と褒められている利用者さんもあり様々でしたが、こうして1年に1回定期的に歯科保健センターの職員に来ていただく事により、職員が全利用者さんの口の状態を把握できる事も大切だと思いました。

何より利用者さんにとって良い機会となります。次回の歯科健診時に、今回の健診結果より良い結果となる事を願っています。(久木原)



クリスマス会



12月15日、ユーアイ帆っとセンターにて保護者会企画クリスマス会が行われました。クリスマス会では、矢野支援員・吉田支援員制作の“今年度を振り返るスライドショー”を始め、美味しい食事、ケーキ、保護者会から利用者さんへの素敵なクリスマスプレゼント等、楽しみが目白押しでした！忙しい時期に、準備を進めてくださる保護者の方々、そして毎年美味しいお弁当を作ってください『ステーキ梅はら』様に、いつも感謝です！！(宮本み)



たくさんの学び、刺激、課題を感じた就労支援フォーラム

12月14日～15日、ベルサール新宿グランドにて開催された「就労支援フォーラム NIPPON2019」に参加しました。今回は「障害者就労支援を取り巻く今の社会」をテーマに様々な発表やディスカッションを聞くことができました。中でも「アップデート」の話は興味深く、アップデートを「進化」と例え、説明されていました。進化の中にも「新化」「深化」「真化」があると表現されており、自分自身の進化について考えさせられました。正直言うと、現在進化はできておらず、現状維持の状態かと感じています。ワークホームにおいて、作業量増加に伴い利用者さんと関わる時間が取りづらくなっている部分は確かにあります。ただ、それだけを理由にしては前には進めないと思います。大事なのはその状況の中で職員一人ひとりが「こうしていきたい」という強い気持ちを持ち続けることだと再認識させられました。今回、恥ずかしながら勉強不足で難しく感じる内容も多く、また、多くの刺激、課題を感じることができ、大変貴重な機会となりました。(宮本)

月刊「ワークホームだより」 2月号

発行:2020年 1月 24日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



知的障害とエビデンス思想

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

利用者の多くは、知的障害を有する人たちである。ところで、「知的障害」とは一体どんな障害なのだろうか。身体障害と比べて知的障害や発達障害は本当に説明しにくい。身体障害の場合には、身体の「欠損」や「機能不全」として説明が付きやすいが、「知的障害」は、説明が簡単ではない。

一般的には、知的障害は年齢に相応しい知的な発達が遅れている人で、例えば、「大人になっても算数の足し算ができません」と説明すると、「あ〜なるほどね!」と理解してくれる人もいます。だけど、利用者のAさんは、かなり高度な算数もこなすから先ほどの説明では当てはまらない。

「子どもは、年齢を重ねるごとに年齢相応の理解力(知力)を備えていくものである」という「幻想」を私たちは持っている。この「幻想」から逸脱した人を「知的障害」だと理解しているのではないだろうか。だけど、一定の年齢で一定の知識・知力を持ちうるものだと、本当に言い切れるのだろうか。たぶん、大まかには言えるのだけれど、人によって多少の違いがあることは誰もが認める。「個性」という言い方は、違いを認めている表現であろう。

それでも、Aさんが知的障害者だと認定されるのには、それなりの理屈がある。その理屈とは、標準化された検査で図った内容をデータ整理して、多い所を「標準」とし、「個性」の範囲を超えたところを「障害」と呼んでいるのである。「10+10=20」という単純な計算式ができるためには、それなりの知力(知的な発達)が求められる。1歳の子どもには無理だけれど、6歳の子どもならできると、誰もが頷く。その根底には、自己の経験を基に「これくらいの年齢なら、これくらいの計算はできるはず」との思想があり、それを集約してデータ化し、より多くの人から賛同を得た時、それを「標準」=「基準」と呼んでいるのである。

実は、エビデンス主義(根拠に基づく思考や手法)も、知的障害の認定とよく似ている。より多くの人々が、賛同し得るように経験値を積み上げてデータ化し「こうすれば、こういう結果になった」と誰もが頷けばそれが「エビデンス」となるのである。

しかし、忘れてはならないことがある。それは、「標準」とならなかった少数データはどこに追いやられるのかということ。データ主義の思想は、「より多く」をつかむ作業だから「少数」は切り捨てられることが多い。エビデンス主義を否定はしないが、何もかもが《エビデンス思想》に侵されていくと、《少数切り捨て思想》に繋がらないかと危惧するばかりである。



2月の予定

- | | |
|----------|-------------------|
| 2月5日(水) | 職員学習会 (利用者は15時終了) |
| 2月12日(水) | サークル |
| 2月15日(土) | 朝ごぱん市 |
| 2月19日(水) | 会議日 (利用者は15時終了) |
| 2月23日(日) | 保護者会 ~一年を振り返る会~ |
| 2月26日(水) | 清掃日 |

*職員学習会日(2月5日)及び、会議日(2月19日)は15時終了。それ以外は、17時終了です。
お迎えの方はご注意ください。

新任職員紹介

1月から、正規職員が1名増えましたのでご紹介します。



1月からワークホーム高砂で働くことになりました、佐伯 真です。福祉は全くの未経験なので、毎日が新鮮で楽しいです。まだまだこれからたくさん覚える事がありますが、まずは利用者さんの名前を早く覚えて、利用者さんに積極的に関わっていきたくですし、クリーニングの仕事と納豆の仕事も少しずつ覚えていきたいです。まだまだ未熟者ですが、これからよろしくお願ひします。

みんなで朝ごぱん市へ行こう!!!

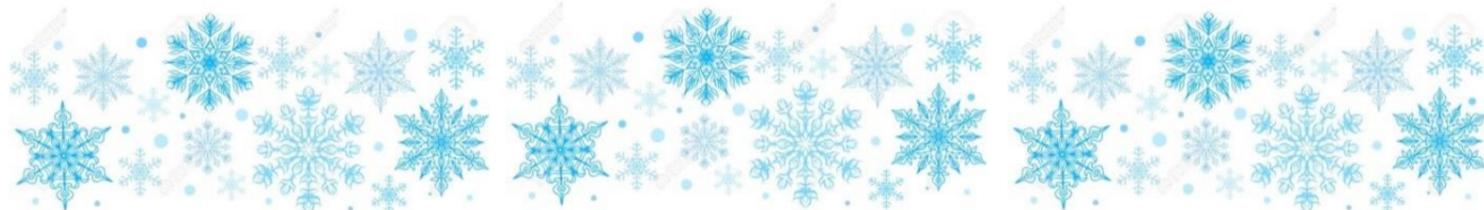
昨年12月より納豆の販売促進を目的として、高砂銀座商店街で毎月第3土曜日に開催されている『朝ごぱん市』に出店させていただいています。このマルシェイベントは2014年より行われており地域活性化に一役買っています。このイベントを通して地域の皆さんに『手作り納豆 なっとこちゃん』を知ってもらい、リピーターとなりヤマダストアーさんに足を運んでほしいと思っています。(楠)

《次回の「朝ごぱん市」は次の通り》

2020年2月15日(土曜日) 8時~11時

高砂市高砂町鍛冶屋町1413 高砂銀座商店街

今月の担当は重里でした。



新年の作業がスタート

クリーニング作業

2020年になり、早くも一ヶ月が経とうとしています。クリーニング作業については、恒例とも言える年末年始に溜まった作業をさばっていくところから新年の作業は始まりました。作業場には「休んだ分はしっかりと働く」と言わんばかりのたくさんの商品が目の前に溢れていました。今回、クリーニング、納豆、各作業の垣根を崩し、普段納豆作業に携わる利用者さんも食堂でタオルたたみを行う等、ワークホーム全体で作業に取り組みました。おかげで休暇中の商品は約1週間で片付けることができました。現在、各作業における課題共有、幅広い作業スタイルの確立等を目的とし、作業シェアリング(主にクリーニング作業に携わっていた利用者、職員が納豆作業に入る等)を積極的に行っています。その成果が今回垣間見えたと感じています。今後、「〇〇班」という独立した考え方ではなく、「ワークホーム高砂」として全体で作業に向き合っていきたいと思えます。(宮本)



納豆作業

今年は、納豆作業にとってはターニングポイントと言っても過言ではない年になります。まず、3月末までに栄養成分表示、6月からはHACCP(安全を確保する管理手法)の義務化が施行されます。そして8月には新納豆作業所が完成する予定になっていて、それに伴いパッケージや容器の見直しも検討しています。また、「なっとこちゃん」の販路の拡大や生産量を増やして売り上げを伸ばし、利用者さんの工賃が少しでも多く払えるようにするのが今いる職員の役目だと思っています。(桂)

冷蔵車にステッカーを追加!

なっとこちゃんの冷蔵車に可愛いステッカーが貼られました。少しでも知名度が上がるようにこの冷蔵車でなっとこちゃんをたくさん配達していきたいと思えます。(桂)



初詣はあいにくの雨!

1月15日、今年初めてのサークルを行いました。当初は曾根天満宮まで初詣に行く予定でしたが、あいにくの雨により食堂でのサークルとなりました。和菓子とジュースをみんなで楽しみながら食べ、その後は2020年の目標を一人ずつ発表してもらいました。“作業を頑張る”“みんなと仲良くする”“病気にならない”等、それぞれの目標を大きな声で発表してくれました!(矢野)



たまごのKAGOTANI!さん訪問!

1月15日、株式会社籠谷 浜風第二工場を見学しました。KAGOTANIさんは、「奥丹波のたまご」をはじめとしたブランド卵やマヨネーズ、明石焼、アイスクリームなど、鶏卵の加工及び鶏卵加工食品の製造を営んでおられます。今回の見学は、昨年度から保護者会の藤野会長から紹介していただいていたもので、今回ようやく実現しました。竹内企画室室長との懇談では納豆の販売等について、直ぐにでも採用できるアイデアを多数お教えいただき、大変勉強になりました。今後、今回学んだことをワークホーム高砂の業務に大いに役立たせたいと思えます。(長谷川)



うがいと手洗いでインフルエンザ対策!

本格的なインフルエンザや風邪のシーズンとなりました。感染予防の基本は正しい手洗い・うがいです。そして抵抗力をつけるためには睡眠やしっかりと食事を摂る事が大切になってきます。現在ワークホームでは、手洗いに加えしっかりとうがいをしてもらうよう声掛けや指導を行っています。(久木原)



料理クラブ

1月22日料理クラブに玉田さん、稲城さん、森川さん、大谷で参加しました。メニューは「お花の巻きずし」「恵方巻」「あんこもち」「豆腐汁」でした。利用者のみなさんは巻き寿司を巻くのに苦戦しながらも上手に巻くことができとても楽しそうに作られていました。あんこもちはたくさんできたのでワークの職員へお裾分けしました。(大谷)



賀詞交換会に参加しました

1月21日、湊川神社楠公会館で、令和2年知的障害児(者)と重度心身障害児(者)のいのちと暮らしを守る会 賀詞交換会が開催され、あかりの家からは三原園長が、ワークホーム高砂からは久木原看護師と長谷川が、保護者会からは光宗さんが参加してくださいました。この会は毎年開催されていて、一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会等7団体が主催しています。今年は、兵庫県健康福祉部長等公的機関の代表者10名の来賓を迎えるなか、施設長や家族会会長等関係者200人以上が参加する盛大なものでした。

「データから見る知的障害児・者の医療について」と題して、愛心福祉会の福田理事長の講義があり、また普段なかなか話す機会が少ない他事業所の施設長と話ができて、有意義な一日となりました。引き続き、関係機関、事業所との連携を深め、利用者にとってより良い支援ができるよう努めていきたいと思えます。(長谷川)

月刊「ワークホームだより」 3月号

発行:2020年 2月 25日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



障害者福祉事業所が倒産する時代

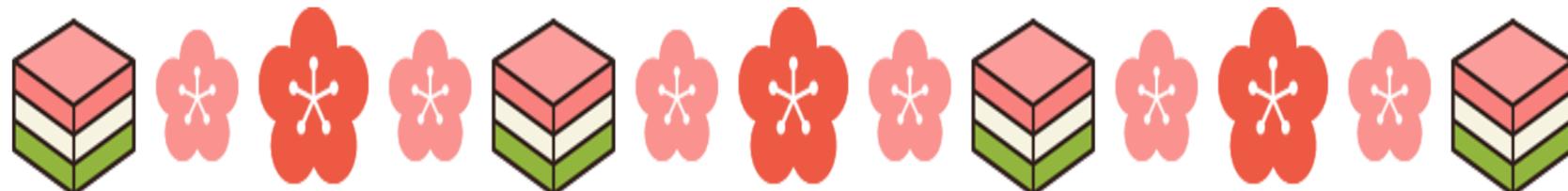
ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

障害者に対するサービスを提供している同業者が「倒産」しているという。東京商工リサーチによれば、2019年の倒産件数は30件で2000年の調査開始以来最も多く、近畿が11件とワースト1位とのこと。障害者サービス事業所の倒産は、介護保険事業者の111件にくらべると少ないが、ワークホームも人ごとではすまされないと危機感を持っている。

私たちの事業所は、利用して下さる人がいて、はじめて収入を得ることができ、安定経営が保たれる。だから、何よりも利用者にとって魅力的な事業所でなければ利用者は集まらない。だから就労支援事業所は、しっかりと働いて豊かな暮らしのために高い工賃を支給できる場所でなければならないと思い、それを目指してこれまで運営してきた。ところが最近のニーズはどうか。「まずは送迎があって、がっつり働くのではなく、楽しく働けたらそれでいい。工賃は多いほうが良いけど、保護者会などのわずらわしいのは嫌」というお母さん方が増えていると聞く。それを証明するかのように、ここ数年、ワークホーム高砂の希望者が減っている。「送迎なし、保護者会あり、長時間の作業と暑い作業環境」、それがワークホームのイメージ。「ニーズとは正反対のマイナスイメージだから保護者の方には進みにくい」と、学校の先生は言う。

「そんなことないですよ！ワークに来てもらえれば、丁寧に作業支援をさせていただき、必ず働けるようになりますよ。そして、働く中でどんどんとたくましくなりますよ！毎日働き成長する姿に保護者の方は改めて我が子の成長を実感し、ワークに来て良かったと感じてもらえますよ。保護者会は、そんな我が子の成長を互いに語らう場で、いつも明るい会ですよ！」と、反論もしたい。しかし、利用してもらわなければ実感もしてもらえない。今後を見据えて頭を悩ます日々である。

そこで、安定経営のために、まずは門戸を広げなければならないと考え始めている。まずは、「送迎」と「作業時間」の見直し。ワークホームの特徴を残しつつ次年度に向けて、見直しへの取り組みを早急に始めようと思う。



3月の予定

3月 4日 (水)	会議日 (職員学習会)
3月 11日 (水)	利用者お疲れさん会 工賃支給日
3月 18日 (水)	会議日
3月 25日 (水)	清掃

※3月4日と3月8日は15時終了、それ以外は17時終了です。
お迎えの方はご注意ください。



保護者会一年を振り返る会

2月23日、10時よりワークホーム高砂の2階食堂にて、保護者会の一年を振り返る会が開催されました！

振り返る会では、矢野支援員・吉田支援員製作の、“振り返りムービー”を鑑賞した後、参加した職員による1年を振り返るスピーチを行いました。

ボイラーの故障から始まり、作業量増大に悩んだクリーニング作業、新しい発酵機の使用や、販路拡大に四苦八苦した納豆作業…。他の職員のスピーチを聞きながら、『大変なことも沢山あったけど、振り返ればアツという間の1年だったな』と感じました。

当日参加の利用者さんや保護者の皆さまと、久しぶりにゆっくりお話しが出来て、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました！ありがとうございました！

来年度も、ワークホーム高砂をよろしくお願ひします(*^-^*)

(岡田)

《振り返りムービーを鑑賞》



《終了後には納豆販売を行いました》



今月の担当は吉田でした。

★ 広がる「なっとこちゃん」販売 ★

ワークホーム高砂では新納豆作業所の完成に備え、販路の拡大をすすめています。

2月からはヤマダストアさんにご協力をいただき、これまでの4店舗（阿弥陀店、青山店、花田店、北野店）から、新たに網干店、大津店の2店舗が加わり、計6店舗での販売に拡大しました。

また、これまで定期的にご購入いただいている4福祉施設に加え、新たに近隣5福祉施設での販売を展開しました。ご協力いただいた皆様に感謝いたします。さらに、毎月第3土曜日、高砂銀座商店街で催される「朝ごぼん市」に参加し、地域とのつながりによる販売のネットワークづくりにも取り組んでいます。

これからも「なっとこちゃん」の成長を温かく見守り、応援していただきますよう、お願いします。

(長谷川)

◀ 次回の「朝ごぼん市」は次の通り ▶

2020年2月15日（土曜日）8時～11時

高砂市高砂町鍛冶屋町1413 高砂銀座商店街



※ 写真は網干店

北海道産 手づくり 小粒 納豆 **復活**

1月27日から“なっとこちゃん”の小粒納豆が復活しました。復活すると同時に新パッケージの変更、価格の方も100円→70円と見直しもしています。新しくなった小粒納豆をみなさんご賞味下さい。

また、小粒納豆の復活と同時に、従来の“大粒なっとこちゃん”もロゴの色をマイナーチェンジして、新納豆作業に向け確実に動き始めました。

(桂)



リニューアルに向けて！

2月19日、株式会社籠谷さんからご紹介頂いた株式会社コパックスさんのお力添えを頂きながらなっとこちゃんの新たなパッケージ・容器の検討を職員一同で行いました。今後、さらによりよい商品を作っていけるよう話し合い皆さんのもとにバージョンアップした「なっとこちゃん」をお届けできるよう取り組んでいきます。

(吉田)



納豆で免疫力アップ

納豆のねばねばに含まれる「レバン」や「ポリグルタミン酸」には、アレルギー抑制作用があると言われています。その為、これからの花粉症等のアレルギーに効果的な食べ物です。また、納豆菌には腸壁の細胞や免疫細胞を活性化させ、免疫力を高める働きがあることも分かっています。ぜひ、納豆を召し上がってください！

(吉田)



10年間お疲れ様でした！！

稲城俊輝さんが2020年1月31日でワークホーム高砂を退所されました。稲城さんは2010年4月から来られており、約10年間クリーニング作業と一緒に汗を流して働いてきました。これからは新しい事業所で働くこととなりますが、稲城さんの良い所を十分に発揮し頑張ってくれると思います。

(重里)



実習生の方々が来てくれました！

1月30日～2月14日、姫路福祉保育専門学校から3名の学生さんが実習に来られました。実習生にはクリーニング、納豆、各作業に参加していただき、喜び、楽しさ、疑問等…色々な「気づき」を見つけて下さいと話をしました。その「気づき」こそが利用者さんとの距離を縮めていく近道になると思います。初対面だからこそ見える気づきがあり、初対面だからこそできるやりとりもあります。10日間という短い期間の中で少しでも多くの気づきを見つけ、そしてワークホーム高砂のことを知ってもらえたのではないかと思います。今後も有意義な実習となるよう我々も考えていきたいと思っています！

(宮本)



インフルエンザと新型コロナウイルス対策を！！

1月中旬から2月上旬にかけて職員が続々とインフルエンザに罹患し、一時的に職員数が減り大変な状況となりました。利用者さんに口酸っぱく、うがいや手洗いを指導していた職員がバタバタと倒れてしまいました。改めて手洗いやうがい、そして規則正しい生活をして睡眠をしっかりとする事が自己の健康管理として大切な事だと再認識しました。

また、今テレビなどで頻りに報道されている新型コロナウイルスの予防対策についても、インフルエンザや風邪と同様に手洗いやうがい、睡眠などの規則正しい生活が大切です。必要以上に怖がらずに、確実にうがいや手洗いを行いましょう。

また、食事に関しては、たんぱく質を意識的に摂取する事です。たんぱく質は、体の様々な部分を作る為に必要不可欠な栄養素です。その為、たんぱく質が不足すると免疫力が低下して病気になりやすくなります。それぞれ成分が異なる動物性たんぱく質(肉や魚など)と植物性たんぱく質(豆類、穀物など)を様々な食品から摂取する事が大切です。

(久木原)

料理クラブ

2月12日、伊集院さん・立岩さん・松永さん・吉田で料理クラブに行ってきました。今回のメニューは、炊き込みご飯・チキンミートロール・ブロッコリーの和え物・塩分控えめみそ汁、いちご大福でした。いちご大福の成形には皆さん苦戦されていましたが、魚橋先生に包み方を教わりながら一生懸命作られていました。

(吉田)



サークル

2月12日のサークルでは来年度に予定されている半袖ユニフォームのデザイン案を利用者全員で考えました！個性豊かな新しいデザインがたくさん集まりました。来年度の半袖ユニフォームのデザインを乞うご期待ください！

また、季節の塗り絵ではひな祭りをテーマに御雛様の色塗りを行いました！

(吉田)



月刊「ワークホームだより」 4月号

発行:2020年 3月 25日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-fakasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

新型コロナウイルスとの闘いから想うこと

ワークホーム高砂施設長 齋藤 克己

新型コロナウイルスの感染が止まらない。ここ1カ月で感染拡大が急速に進み、姫路の仁恵病院では看護師さんや患者さんが感染した。ワークホーム高砂は、その病院からのリネンを取り扱っている。そのため、リネン対応の状況について直ぐに利用者さんと行政（東播磨県民局）に連絡を入れさせてもらった。

結論から言えば、「やるべきことをこれまでどおりしっかりやる」しかないのである。入ってくる病院リネンは新型コロナウイルスが付着しているものとして取り扱うこととしている。運搬車内でオゾン消毒を行い、運び込まれたリネンは速やかに次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしながら洗濯を行う。運搬車のオゾン消毒の段階でかなりの効果が見込め、洗濯槽の次亜塩素酸ナトリウムの段階でウイルスは死滅し洗濯で洗い流す。その作業は、業務用大型自動洗濯機の中で行われるため、人が触れるのは洗濯機への投入までである。本来ならば「仕分け作業」をワークホームの職員と利用者が行うが、仁恵病院のリネンについては洗濯後に仕分ける作業を行うことをGOTOさんと確認し、これまでと同様に利用者さんと職員が洗濯前の汚染物に触れることはない。保護者さんへはその旨を連絡している。

今回の新型コロナウイルスによる混乱は、各界に広がり、右往左往している状態。しかし、「医療関連サービスマーク」を取得するワークホームでは、これまでもノロウイルスやMARS A、新型インフルエンザウイルスなどの危険にさらされてきた。仕分け作業の「つなぎ服」「マスク」「手袋」「ゴーグル」は、自分たちの身を守る必需品との認識で、どんなに暑い夏でも完全防護のスタイルで作業をしている。ワークホームとしては日頃の感染予防の取り組みを淡々とルールどおりに「やるべきことをしっかりやる」との姿勢でこれからも取り組んでいきたい。もちろん、これで「大丈夫」というわけではない。しかし、「眼に見えない敵」との闘いは、これまでの知識と技術の蓄積を信じて、既に確立している感染予防のノウハウをしっかりと守ることが大事なのだと思う。

そして、何よりも「免疫力」を高めておくこと。そのためには、しっかりと栄養を摂り、規則正しい生活を心がけること。「手洗い」「うがい」「水分補給」「マスク着用」に加えて、免疫力アップに有効な「なっとこちゃん」(納豆)もお忘れなく！

保護者役員会が開催されました！

3月15日、ワークホーム高砂において保護者役員会が開催され13名の保護者さんが出席しました。今回は、2020年度事業計画について話し合われました。現在の案では、5月24日に総会を開催し、終了後にはミニ研修会としてグループホーム希望山荘日笠の木澤支援員兼世話人(副主任)に「グループホームの取り組みについて」お話をさせていただくことにしています。また、例年実施している全体行事は2020年度も実施する予定で、利用者が楽しみにしているパーベキュー大会は、10月25日に予定されています。事業計画は5月24日の総会で決定されますので、保護者の方々には是非とも総会への出席をよろしくお願いいたします。

4月の予定

4月 1日(水)	職員会議日
4月 8日(水)	季節行事/工賃支給日
4月15日(水)	掃除
4月22日(水)	職員会議日
4月29日(水)	職員学習会

※4月1日、4月22日、4月29日は15時終了、それ以外は17時終了です。お迎えの方はご注意ください。

3月いっぱい退職される職員



中右 祐企さん
(なかう ゆうき)

3月末をもって、退職することになりました。皆さんに支えられながら学び、楽しい時間を過ごすことが出来ました。歩む道は変わりますが、この経験を糧にして頑張っていきたいと思えます。最後に皆さんが健康でありますように、ご活躍できるように願っています。5年間ありがとうございました。



重里 健介さん
(しげり けんすけ)

ワークホームやグループホームで1年間沢山の経験をさせて頂きました。この経験を活かして今後の人生や仕事を頑張っていきます。ワークホームの皆さんも体に気を付けて仕事を頑張り余暇を楽しんでください。短い間でしたがありがとうございました。

新任職員紹介

【正規職員】

吉中 波緒人
(よしなか なおと)



3度目の復帰となります吉中波緒人です。これまでは、嘱託職員でしたが3月からは正規職員として働かせて頂くことになりました。今まで以上に責任を持ち少しでも皆様のお役に立てるよう精進していきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

【パート職員】

福井 由利子さん
(ふくい ゆりこ)



道の駅巡りが大好きなおばあちゃん新人です。皆さんと仲良くなれるように頑張ります。

室田 登喜恵さん
(むろた ときえ)



今日より若い日はない、頑張ります。これからよろしくお願いいたします。

森蔭 圭さん
(もりかげ けい)



3月から職員として、納豆作業所で働かせてもらっています。おこたらない点がありますが利用者さん、職員の皆さんこれからもよろしくお願いいたします。

今月の担当は吉中でした。

“なっとこちゃん”がリニューアル！！

“なっとこちゃん”を製造・販売し始めてから8年が経ちました。

これまで多くの方に愛され親しまれてきましたがこの間、価格改定やパッケージの見直しを行ってきませんでした。しかし、原価の高騰やより良い商品作りの為のコスト増大などもあり、この度やむを得ず価格改定に踏み切ることとなりました。また、価格改定と同時にパッケージ（容器・ラベル）の見直しを行い、お客様により親しまれる“なっとこちゃん”に仕上げました。

そして、新たに稲美乳販さんと協力して宅配の商品も開発し、新たな販売ルートの開発にも取り組むことにしています。



- ・なっとこちゃん大粒 45g 70円（税抜き）
- ・なっとこちゃん大粒 100g 140円（税抜き）
- ・なっとこちゃん大粒 しそのり 70円（税抜き）
- ・なっとこちゃん小粒 45g 80円（税抜き）

“なっとこちゃん”の大豆って北海道産なのです！

皆さん！！“なっとこちゃん”は北海道産の国産大豆を使用しているって知ってましたか？！大粒納豆は“ゆきほまれ”という大豆で、小粒納豆は“ゆきしずか”という北海道幕別町のJAさんから直接仕入れている純粋の国産大豆なのです。白くてふっくらした美味しい“なっとこちゃん”を是非食べてみてください。（桂）

1年、おつかれさん！！

3月11日、食堂にて『利用者おつかれさん会』を開催しました。おつかれさん会では、美味しいパンケーキを食べました。その後、矢野支援員、吉田支援員が作成したスライドショーを観ながら今年度を振り返りました。全員で行った一泊旅行、楽しかったクリスマス会など、2019年度の行事に皆さん歓声をあげていました。2020年度も、作業や余暇活動を通して沢山の思い出を作っていきたいと思います。2019年度の自分より、成長できたと思える一年にみんなの力でして行きましょう！！（吉中）



～手づくりマスクで新型コロナ対策！！～

皆さんご存じの通り、新型コロナの影響でマスクの流通がかなり不足している状態です。職員総出で探し回っていますが、未だ購入できていません。ワークホーム高砂では、クリーニング作業と納豆作業で膨大な数のマスクを使用しますので、在庫に底がついてきました。その為、パート職員さんの力をかりてキッチンペーパーで手作りマスクを製作する事になりました！

これはあくまでもクリーニング作業で生じるホコリ対策として使用していますが、汚れた手で口元を触る事などを防ぐ効果もあります。マスクの供給が安定するまでマスク作りを継続する予定です。（久木原）



一年間の振り返り

慌ただしくすぎた1年 ～クリーニング作業～

2019年度のクリーニング作業は様々な出来事がありました。春先、ボイラー1基の故障により、日中の洗濯業務が行えず、写真のようにシーツが山積み状態から毎朝の作業開始となりました。ボイラーが直った夏頃には布団の入れ替え、新商品による作業量の増大、ようやく作業が落ち着き、閑散期に入ったことを実感したのが2月。慌ただしく1年が過ぎていったように思います。

作業に追われる日々の中で、何度も“利用者さんも職員も作業員になっていないか”、“この現状で胸を張って『私は支援員です！』と言えるのか”、自問自答を繰り返した時期もありました。作業以外では、5S活動の本格化、ネックールによる熱中症対策、水溶性ランドリーバッグを使用した感染症対策など、様々な取り組みを行いました。

今年度後期には、シェアリング作業の開始により納豆班・クリーニング班の利用者さん・職員が一丸となり、“ワークホーム高砂”として作業を行いました。納豆作業、クリーニング作業共に大変な1年だったからこそ、“ワンチーム”で乗り切った1年になったと思います。（岡田）



新作業場への準備 ～納豆作業～

2019年度の納豆作業は、夏完成予定の新納豆作業場に向けて準備段階の1年でした。

作業場には生産量の増加に向けて、新しい業務用冷蔵庫と発酵機を導入していただきました。また、様々な人のお力添えで、販路拡大も徐々にではありますが進めることができました。

小粒納豆の販売を一時取りやめ、パッケージのリニューアルを行いYAMADAストアさんに置かせていただけることになりました。2月からはYAMADAストア網干店、大津店にも置かせていただけることになり、なっとこちゃんの知名度を上げることができたのではないかと思います。

保護者の方々には多くのご協力をいただき、本当にありがとうございました。

新年度に向けより一層頑張り、工賃向上につなげたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお祈りします。（大谷）



月刊「ワークホームだより」5月号

発行:2020年4月24日 発行者:ワークホーム高砂
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111
http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



クリーニング作業の大きな変化と新納豆作業場の建設



ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

新年度がスタートして1か月が経過しました。新年度の始まりは、いつも新規職員のフレッシュな雰囲気の中で始まりますが、本年度も4月1日付けで3人の新人職員（錦さん、平谷さん、吉永さん）を迎えましたので、どうかよろしくお願いいたします。

さて、新年度にあたり本年度の事業推進の方向について少し触れてみます。

まずは、クリーニング事業です。昨年来、GOTOさんとの交渉を継続していますが、本年予定されている「医療関連サービスマーク」については、更新申請をすることといたしました。新型コロナウイルスの感染拡大などにより、「医療関連サービスマーク」取得工場の社会的役割は一層重要性を増しています。取り扱っている商品が、ウイルス等に汚染されているかもしれないとの危険認識を十分に持ち、これからも「医療関連サービスマーク」取得工場に相応しい働き方と役割を追究していきたく思います。

保護者の方には既に報告済みですが、新型コロナウイルス感染拡大を背景として洗濯作業の進め方を抜本的に見直し、汚染物を直接取り扱う危険性の高い「仕分け作業」を廃止しました。これはGOTOさんとの話し合いのなかで決まったもので、3月の試行を経て4月から本格的に実施しています。このことは、ワークホーム設立以来の作業課題を解決したことになり、利用者はもとより保護者の方からも大変喜んでいただいています。

実は、このことがクリーニング作業全体に大きな変化を生み出しつつあります。工場の外と内で分断されていたクリーニング作業が、「仕分け作業」の廃止により全員工場内で働けるようになり、職員も利用者も一体感を持って工場内作業に従事できる環境となりました。本年度は、この環境をベースに利用者も職員も働き方改革にしっかりと取り組んでいけると確信しています。

次に、納豆事業についてです。遅れていた「新納豆作業場」の建設工事が始まっています。当初は、5月の完成予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中国からの物品調達が難しく、9月末にずれ込むことになりました。したがって、新工場での作業開始を10月として予定を立て直し、私たちの「夢」でもある新作業場の準備を着実に進めたいと思います。

新たな作業場は2階建てです。1階は作業場が2か所あり、2階は利用者の休憩場所と事務所です。また、2階の南側には、狭いですがショップを設け「なっとこちゃん」の販売のほか、お客さんがその場で様々な納豆やたれを選びながら食べられる「納豆バー」も計画しています。職員達が様々な構想を持ち寄り具体化に向けて意見を出し合っています。どうか、10月のオープンを楽しみにしててください

5月の予定

5月 6日(水) 作業班会議日
5月 13日(水) 清掃、工賃支給日
5月 20日(水) 職員学習会
5月 27日(水) 職員会議日

※5月6日、5月20日、5月27日は15時終了です。
お迎えの方はお間違えのないよう、よろしくお願いいたします。

2020年度 ワークホーム高砂、 希望山荘日笠・オリーブの家職員紹介♪



新任職員紹介！！

名前：錦 諒
(にしき りょう)

趣味：スポーツ（テニス）

4月から支援員として働かせていただいています。実習で一度お世話になり、ワークホームで更に障害について学びたいと考え、現在に至ります。分からないことだらけですが、これから様々なことを吸収していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

名前：平谷 成矢
(ひらたに せいや)

趣味：釣り、映画鑑賞

4月から支援員として働かせていただいています。社会人1年目なので若さと元気で頑張っていきたいと思っています。

平谷さん、吉永さんはサッカークラブ「チェント・クオーレ・ハリマ」でスポーツマンとしても奮闘中です！！

名前：吉永 唯人
(よしなが ゆいと)

趣味：筋トレ、アニメ

4月から支援員として働かせていただいています。右も左も分かりませんがフレッシュさを活かして明るく元気よく働きたいと思っています。

今月の担当は宮本でした



新型コロナウイルス感染症対策！！

対策その1 ～休憩時間の二部制を実施～

対策その2 ～次亜塩素酸水等の導入～

対策その3 ～玄関の移動～

対策その4 ～人工芝の設置～

- ①換気の悪い“密”閉空間
- ②多数が集まる“密”集場所
- ③間近で会話や発声をする“密”接場面、いわゆる“三密”が揃う場所は



クラスター発生リスクが

高いとされています。“三密対策”

として、全ての部屋を常時換気することに加えて、3月末からは昼休憩の二部制を実施しています。二部制にすることで対面での食事が無くなり、濃厚接触のリスクを軽減することができます（マスクを着用している状態であれば濃厚接触に該当しないとのことです）。（岡田）

世間では未だにマスクや消毒液が調達できない状況となっています。



↑《オゾン発生器》

その厳しい状況の中、感染症対策の一環で“次亜塩素酸水”を取り入れることにしました。手指消毒やドアノブ、公用車等を消毒しています。次亜塩素酸水とは、いわゆる次亜塩素ナトリウム（ハイター等）とは全く異なる成分で、人体には無害なので手指消毒にも使用できる除菌・消臭水です。

また、“オゾン発生器”を3台導入しました！利用者が密になる食堂と衛生面を考慮し厨房にも設置しました。オゾン発生器はウイルスや細菌などを不活化するようなので24時間付けたままで感染症対策に取り組んでいます。（久木原）

現在、感染症対策の一環でワークホームにおける「衛生区域」と「非衛生区域」の明確化を進めています。その中で衛生面を配慮し、この度“玄関”を北側（作業出荷側）へ移動しました。すでにドアホンについても新しく設置していますのでワークホームへお越しの際は



“新玄関”をご利用下さい。また、作業場における区域の明確化も同時進行中ですので随時発信していきます！（宮本）

ワークホーム駐車場についてはクリーニング商品の集配等で大型トラックも利用



されています。衛生面に加え、利用者の安全面を意識し、この度南側の緑地帯に人工芝を設置しました。以前は雨の日は水たまりができることもありましたが今後は



快適に行き来できるようになったと思います。まさに、鮮やかな“緑”地帯となりました！（大谷）

念願の晴れ＊～みんなでお花見会＊～

4月8日、お花見会と題し、みんなで天川東公園まで歩いて桜を見に行きました。実は最近では2年続けて雨が続き、実際に外に出て桜を見に行ったのは3年ぶりとなりました。今年は晴れ男、晴れ女がたくさんいたのかもしれないですね（笑）。今回はコロナウイルスを考慮し、マスクの着用を徹底しての実施となりました。休日、出かけることができず自宅で過ごしている時間も多いため、「桜咲いとるな～、キレイやな～」等と話しながら各々楽しまれている様子でした。（矢野）



新利用者紹介♪

大内 雄喜さん（おおうち ゆうき）

3月23日より、新しく大内雄喜さんが入所されました。昨年度、東播磨特別支援学校、学生時代はあかりの家児童デイにも通いながら、今回ワークホーム高砂で社会人としてのスタートを切ることとなりました。学校生活と社会生活では大きく環境が異なり、電車通勤、7時間作業と初めてのことばかりで緊張や疲れも多いと思いますが、大内さんの「手本を見て自分で修正できる」という強みを活かし、頑張ってもらいたいと思います。（楠）



P.S. 彼の笑顔にはみなさん毎日癒されています♪

☆新たな風を！各作業、今年度の抱負☆

クリーニング

今年度より、クリーニング作業については岡田、吉中が責任者として従事させていただくこととなりました。今年3月末から仕分け作業を廃止し、利用者、職員共に汚染物に触れることがなくなりました。感染症のリスクを最小限にすることができ、今年度は良いスタートが切れたと思っています。今年度は「作業の効率化」、「四季を通じてより良い環境作り」ができるよう心掛けたいと思います。そして、“本当の意味でのワンチーム”を追求したいと思います。そして、「利用者の為の支援とは何か」を追求し続け、作業を通して人と人との関係性を大切にしていけるよう考えていきたいと思っています。今年度もよろしくお祈りします！（吉中）



納豆

今年度、納豆作業は大きな変化を迎えます。まず、4月1日より「なっとこちゃん」のリニューアルを行い今年度の納豆作業がスタートしています。4月21日からは、今までのヤマダストア6店舗（阿弥陀店・青山店・花田店・北野店・網干店・大津店）に加え、新たに“朝霧店”で「なっとこちゃん」を置いて頂けるようになり販路拡大進行中です！また、9月末の新納豆作業所「なっとこちゃん工房」の完成に向け、建設業者と週に一度打ち合わせを行い、計画を進めています。利用者、職員共により美味しい「なっとこちゃん」を作れるよう衛生面を意識しながら作業を進めていきたいと思っております。今年度もよろしくお祈りします！（吉田）



月刊「ワークホームだより」 6月号

発行:2020年5月26日 発行者:ワークホーム高砂
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111
http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

ピンチをチャンスに！ ～新型コロナ対策で仕分け作業を改善～

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

汚れたシーツなどを洗濯前に仕分ける「仕分け作業」は、ワークホームでは一番過酷な作業でした。ウイルスや細菌から身を守るために防護服を着て、目にはゴーグル、口にはサージカルマスク、手には使い捨てのビニール手袋、まるで原発事故の処理班のような感じで作業をしていました。そして、作業場所は工場の外という最悪の環境の中で重いリネン袋を開封してシーツを仕分けていました。雨に濡れた時には100キロもあろうかというシーツトラックを移動させていました。夏は汗でゴーグルが曇り、ビニール手袋をはずすと汗がしたたり落ちるといって、「重労働」「不衛生」「危険な作業」そのものでした。ですから、保護者参観などで親御さんから仕分け作業の不安が語られるたびに、「なんとか改善をしたい」と強く思っていました。GOTOさんをお願いをして運搬車にオゾン消毒器を導入してもらったり、作業を半日単位にして交代制にしたり、休憩を頻繁にとりクーラーで冷やした休憩場で水分補給をしてもらうなどの改善を図ってきました。しかし、どうしても対症療法的で抜本的な作業改善は出来ていなかったのです。

ところが、新型コロナウイルスは、ワークホームのクリーニング作業を一変させました。3月7日、姫路の仁恵病院で感染者が出て、その病院リネンをワークホームで洗濯していることがわかり、「新型コロナウイルスが付着しているかもしれないシーツを洗う工場」という現実を受け止めなければなりません。この現実を前提に、これまでにはない危機感をもってGOTOさんと話し合いをした結果、「先に洗濯をして後から仕分け作業をしてはどうか」と、作業方法の抜本的な改善提案がGOTOさんからありました。私たちは当初、「そんなことが可能なのか、洗濯後に仕分ける場所がないのでは・・・」と懐疑的でした。しかし、「他の工場に例はある。やってみないと問題は洗い出せない」とのGOTOさんの意見に押される形で3月中旬に試行を開始しました。その結果、「問題がないとは言えないが解決可能な範囲」とのこと、3月下旬から本格実施に至っています。

今回の作業方法の変更は、「不衛生で危険な作業」からの解放を実現すると同時に、「重労働」からも半分解放される結果となりました。また、全ての利用者が工場内で働ける作業環境の実現とともに、シーツ作業と仕分け作業の一本化により作業人員が実質的に増えてもいるのです。まさに、「ピンチをチャンスに！」という言葉がピッタリ当てはまる結果となっています。今回の改善は、GOTOさんの提案がなければ実現しなかった訳で、GOTOさんの課題解決意識の高さに学ばせてもらう結果となりました。

これからも、新型コロナウイルス感染症の危険は続きますが、「油断せずにやるべきことをしっかりやる」という意識で、作業にも感染症対策にも取り組んでいきたいと思っています。

6月の予定

6月 3日(水) 作業責任者会議日
6月 10日(水) 清掃、工賃支給日
6月 17日(水) 職員学習会
6月 24日(水) 職員会議日

※6月3日、6月17日、6月24日は15時終了です。
お迎えの方はお間違えのないよう、よろしくお願いします。

2020年度の工賃の考え方と2019年度の平均工賃

2020年度の工賃は、納豆の収益等が安定し年間財源に一定の見込みができるようになったことから、月額工賃のベース金額を大幅に見直しました。今後とも職員一同工賃の向上に努めていきたいと思っています。工賃に関するご質問等があれば気軽にお声かけください。(楠)

《2019年度月額工賃 ※一時金を含んだ平均工賃》

○全体平均工賃 36,648円

○就労継続B型 42,407円 (2018年度43,906円) ○生活介護 30,889円 (2018年度28,216円)

保護者会事業計画など承認される！

2020年度の保護者会総会は、新型コロナウイルスの対応として書面評決となり、賛成多数で事業計画、予算案などが承認されました。また、5月24日に開催された役員会では、新型コロナウイルスの影響を考慮して6月14日の「環境整備」を中止することが決まったほか、今後の行事についても新型コロナウイルスの終息状況を見ながら行事実施の可否を検討することとなりました。

スポーツドリンクで熱中症対策！

今年も保護者会からスポーツドリンクを大量に購入して頂きました。また、ウォーターボトルも全利用者に提供していただきました。夏のワークホームには欠かせないアイテムなので、利用者さんも職員も大変喜んでいきます。保護者会のご協力のもと今年も暑い夏を乗り越えていきたいと思っています。(桂)



ワークホーム高砂の新たな挑戦！！ 洗車作業を開始！！

5月から新規事業として洗車作業を始めました。当面は法人内の公用車を中心に行う予定ですが、洗車技術が向上してきたら一般のお客様の洗車も受け付けていきたいと思っています。初めての作業で試行錯誤しながら取り組んでいますので、一般のお客様の洗車を受け付けられるようになった時には、是非ご利用をよろしくお願いいたします。(楠)

料金表	基本料金		オプション	
	水洗い洗車	洗剤洗車	WAX かけ	車内清掃
軽自動車	400 円	100 円	200 円	100 円
普通車	600 円	200 円	300 円	100 円
1BOX 車	700 円	300 円	400 円	100 円



車内清掃



全体に洗剤を掛けます



ルーフもしっかり洗います



丁寧に水滴を取ります



WAX かけ



クリーニング作業

仕分け作業を廃止して1ヵ月

3月末に仕分け作業を廃止し、汚染されたものに触れない作業の形となって1ヶ月が経過しました。仕分け作業廃止後は、“洗濯場は非清潔区域”“作業場は清潔区域”という認識のもと、玄関の移設や洗濯後の商品荷受け場所の変更など、『清潔』に関する様々な取り組みを行っています。しかし、仕分け作業を廃止した先に見えてきた課題も多くあるのも事実で、『課題が見えなくなれば障害者施設は終わりだ』と職員間で話しながら、解決策を探っています。今後もチームで課題と向き合い、乗り越えながら、よりよいワークホーム高砂を作っていきたいと思っています。(岡田)

納豆作業

暑さ対策開始

多くの方々のご支援により、「なっとこちゃん」の生産数が伸びてきました。それと同時に「なっとこちゃん」の知名度も高くなってきている事をとても嬉しく思っています。

ところで夏が近づくと、
「なっとこちゃん」を作る
作業場の温度も少しずつ高
くなってきて、豆炊きをして
いる作業場の気温は、冷房を
付けた状態でも30℃を越す日



が出てきました。そこで業務用の扇風機を2台設置し、作業場内の暑い空気を少しでも外へ逃がすための工夫をしています。今後は、こまめな水分補給やネットクールなども活用しながら暑さ対策を意識していきたいと思っています。(大谷)

新納豆作業場工事が進む！！

今年の10月の完成を目指して新納豆作業場の工事が進んでいます。すでに鉄骨が組み、建物の全体が見えてきました。工事の進捗状況については次月でもお知らせします。(桂)



「学習会でワークホームの歴史を振り返る！！」

若い職員が中心となって現場を引っ張っている今、過去のワークホーム高砂を知っている職員が少なくなってきました。そこで学習会を通じて過去のワークホームの実態を知り、現在に至るまでの流れを学習しました。齋藤施設長が中心となり職員が試行錯誤しながら当時の状況を打破したことやチームが1つになり取り組んだ結果が今のワークホームの姿だと知りました。

今後も作業環境の改善や利用者支援を前向きに考え、“健常者と障害者が共存できる職場”“笑顔が絶えない職場”を作っていきたいと思っていました。そして、その目標を達成する為には職員自身のスキルアップが必要で、月に一度の学習会を通じてこれからも学び続けたいと思います。

(吉中)



新型コロナウイルス対策

自動ソープディスペンサーを導入！

感染症対策として自動ソープディスペンサーを導入しました。手をかざすだけで泡石鹸が出てくるので、ボトルに触れることなく、衛生的に手を洗うことができます。また手洗いの時、適量のハンドソープを出す事が難しい利用者さんにも衛生的で最適な機械だと思います。

(久木原)



下駄箱等が新しくなりました

感染症対策として玄関が移動したことは先月号でお伝えしましたが、この度、下駄箱と玄関マットが新しくなりました。ご来訪された際には、この下駄箱をご利用ください。

(桂)

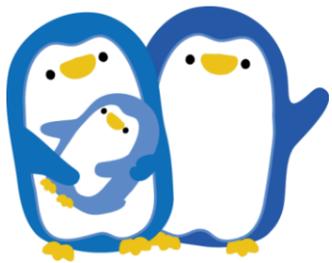


月刊「ワークホームだより」7月号

発行:2020年6月24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



彼はなぜマスクを着けることができたのか

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

グループホームからワークホームに通所しているAさんは、コミュニケーション言語を持たない「障害支援区分6」の自閉症の方。毎日、ワークホームで防水シーツやフェイスタオルを畳んでいる。彼は、ほこり対策として以前から他の利用者さんと同様にマスクを着用して作業をしていた。だから、世間で新型コロナ対策としてマスク着用が推奨されたときにでも、「自閉症の方は着用が難しいのでは」と心配する声をよそに彼はしっかりとマスクを着用して作業ができていた。

ところが、グループホームでの彼は違っていた。新型コロナウイルスが世間を騒がせ始めた3月、グループホーム内でもマスクを着用してもらうことになった。ほとんどの利用者さんが直ぐにマスク着用の生活を始めたが、Aさんだけはサージカルマスクのゴムを引きちぎってマスクを捨ててしまうという行動が頻発した。ワークホームの作業場面では見られない行動であった。

実は、こうした行動の違いは自閉症の方にはよく見られるもので、「場」と「モノ」とを結びつけて認識しているためではないかと言われている。そう考えると、Aさんにとってのサージカルマスクは、ワークホームの作業と結びついていて、グループホームの暮らしとは結び付いていないのではないかと思われた。

当初職員は、なんとかサージカルマスクを着けてもらおうと必死に頑張ったが、発想を切り替え、手作りマスクで挑戦することにした。女性職員が、彼の好みそうな色柄の布を購入してマスクを縫い、グループホームの男性職員が、「この布マスクは、グループホームで着けます。コロナウイルスにかからないようにするためだよ」としっかり説明して着用を促した。すると彼は手作りマスクを受け入れ、グループホームと通所時にはそのマスクを着用するようになったのである。

私たちの日常は、こうしたささやかな実践を積み重ねながらチームで利用者さんを理解し応援する仕事である。今回のマスクの一件は、彼の生きづらさに気づかされる機会となった。と同時に、私たちの「支援力(専門性)」が彼の行動や生活の質に直結することを改めて教えてくれたと思っている。しかし、彼がなぜマスクを受け入れたのか、本当の理由を私自身はまだ分かっていないような気がしている。

作業責任者会議の実施!!

今年度より、施設長・楠主任・納豆責任者の桂副主任・クリーニング責任者の吉中・岡田が参加する作業責任者会議が新たに行われています。この会議では、毎月の振り返り、各作業班の課題共有を始め、納豆・クリーニングの更なるシェアリング化などの将来を見据えた話し合いが行われています。クリーニング作業の繁忙期に入ると、ゆっくり話し合う機会も少し減ってしまうため、会議はかなり有意義な時間となっています。(岡田)



7月の予定

7月 1日(水)	作業責任者会議日
7月 8日(水)	清掃、工賃支給日
7月 15日(水)	職員会議日
7月 18日(土)	健康診断実施日
7月 22日(水)	季節行事
7月 29日(水)	職員学習会

※7月1日、7月15日、7月29日は15時終了です。
お迎えの方はお間違えないよう、よろしくお願いします。

～健康診断に関するお知らせ～

7月19日(土)、ワークホーム高砂職員・利用者一斉の健康診断を予定しています。健康診断につきましては、朝食を抜いてご参加いただきますよう、ご協力をお願いします。また、土曜日公休の利用者さんについては、お手数ですが、健康診断の時間帯のみ来ていただきますようお願い致します。詳細につきましては、後日、通い袋を通して連絡させていただきます。(久木原)

ユニフォームのデザインが新しくなりました!

今回、半袖ユニフォームのデザインが新しく生まれ変わりました!今回は利用者さん、職員の全員で一人一案のデザインを作成し、約60のデザインから投票にて決定しました。激しい競争率の中、見事選ばれたのは「みんなが太陽のように輝いていく」ことを願いに込めた下記のデザインです。今回もデザインの色をサイズごとに分けるといった工夫を施しています。みなさん、新ユニフォームをまとい、厳しい暑さを乗り越えていきましょう!(宮本)



今月の担当は岡田でした



洗車事業！お客様第一号！！

梅雨入り前のよく晴れた、まさに“洗車日和”となった6月9日。ワークホーム高砂 初となる職員の私用車の洗車を行いました！

この日の洗車メンバーは、松永さん・濱口さん・楠主任の3名。楠主任の指揮の元、車内清掃・シャンプー洗い・ワックスがけ等が出際良く進められ、約1時間で新車のようにピカピカになりました。

仕上がりをみた職員たちからは、『この値段はかなりお得！！私も洗車して欲しい！』という声がちらほら聞こえています(*^-^*)

梅雨時期に入る為、しばらく洗車事業はお休みとなりますが、夏場は、作業中の帽子着用・こまめな水分補給・午前中の比較的涼しい時間帯の洗車など、暑さ対策を充分に考えながら行いたいと考えています。(岡田)



なっどこちゃん

地球に優しいレジ袋へ

7月1日から全国で一律にプラスチック製レジ袋の有料化が始まります。それに伴いワークホーム高砂では、この度、地球環境に優しいバイオマス素材のレジ袋（無料）に変更する事にしました。レジ袋削減にご協力して頂くためにも、お客様には地球に優しいエコバックを利用して頂けると助かります。(矢野)



クリーニング作業場の暑さ対策

今年も暑くなる少し前に、サンシェードを張りました。作業場西側の窓、全てにサンシェードを張ることで強い日差しを遮っています。また、サンシェードと窓の間に空間を作ることで風の抜け道も確保することが出来ています。

6月に入り、暑い日にはスポットクーラーの使用、アクエリアスによる水分補給なども行っています。

梅雨が明け、本格的な夏がやってくる頃には、昨年から開始しているネックールも活用していきたいと思っています。(楠)



玄関・ゴミ箱がキレイになりました

6月22日、新しい玄関の砂利部分のセメント舗装やポスト移設と、駐車場のゴミ箱設置を行いました。施工をしてくださったのは、何でもできる楠主任！なんと今回のゴミ箱も楠主任のお手製です！

感染症対策の一環として移設された玄関ですが、玄関口が少し分かりにくくなっていましたが、大変玄関らしくなったと思います。

『玄関はその家の顔』と呼ばれる程、大事な場所だと思います。今後も少しずつ玄関が綺麗に変化していく予定です。次回はどこが綺麗になるか楽しみにしておいてください！（吉中）



新納豆作業所!!～完成に向けて進む～

ワークホームだより6月号での報告から1か月が経過しました。この1か月間で床のコンクリート舗装が終了し、外壁工事のパネルを取り付け始めています。外壁工事が終わると、いよいよ屋根の工事に進んでいく予定です。

新納豆作業所の完成が近づくにつれ、利用者さんと職員の期待がかなり高まっています。作業場が完成し、今より快適に作業できる日が待ち遠しいです。(桂)



兵庫県産大豆で新たな挑戦！！

地産地消というテーマのもと、兵庫県産大豆“夢さよう”を使用した納豆の商品化に向けて、試作を開始しました。夢さよう大豆を炊くにあたって、怪我をした大豆の除去作業を行うため、今回は利用者さんと一緒に選別作業から行いました。手作りの良さを活かし、丹精込めた納豆作りに励んでいます。また、大粒なっどこちゃんで使用している北海道産大豆“ユキホマレ”と比べても更に大豆が大きく、食べ応えのある納豆になっています。まだまだ試作段階ですがタレ・パッケージの検討を含め商品化に向け検討していきたいと思っています。

(吉田)



月刊「ワークホームだより」8月号

発行:2020年7月23日 発行者:ワークホーム高砂
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111
http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



身の引き締まる思い！

～保護者向け見学会を終えて～

ワークホーム高砂施設長 齋藤 克己

6月24日と7月8日、「保護者向け見学会」を開催させていただき、延べ18名の方にお越しいただきました。お越しいただいた方の多くは、特別支援学校に子どもを通わせている保護者の方がほとんどでしたが、中にはサービス事業所の職員さんもおられました。見学会開催は、今年3月に特別支援学校を卒業し、仲間として新たに迎え入れたYさんのお母さんからの提案がきっかけでした。見学会では、ワークホームの運営理念や実際の取り組みを説明し、クリーニングの作業現場や納豆作業、それに、一体運営を行っているグループホームについても見ていただくことができました。「うちの子は、こんなに働けないです。ここの利用は難しいかも!？」という声が多かったです。それに対しては、「最初から働ける利用者さんはいませんよ。練習して職員も応援するなかで、少しずつ働けるようになるんです。諦めずに、若いうちは挑戦させてみてください!」とお答えさせていただきました。

見学会を開催して数日が経った頃、今回の見学会を提案してくださったYさんのお母さんから、参加した方の感想を文章でお預かりしましたので、参考までにご紹介します。改めて、法人あかりの家に対する期待の大きさを感じ、職員一同、身の引き締まる思いで読ませていただきました。これからも、より多くの方にワークホーム高砂を知っていただく機会を設けて行きたいと思っております。Yさんのお母さん、本当にありがとうございました。

《事業所見学会に参加された方の感想》

- 参加できて良かったです。イメージしてた事業所とは違い明るくて利用者さんもいい顔されてました。こんな事業所に子どもを行かせたいと思いました。今まで行った事業所の中で一番良かったです。
- やはりあかり系列は違います。ここで働かせたいです。色々頑張ろうと思いました。職員さんの一人一人に対する姿勢、事業所の体質がにじみ出ていて子どもをお任せしたいと思いました。参加できて良かったです。
- あかり系列 安定の良さですね。その人のペースで対応して下さる所、現状維持ではなくスキルアップを考えたくて下さる所、ありがたいです。電車通勤と仕事になるので体力面が心配です。送迎があったらな～。
- 参加させていただきありがとうございました。とても刺激的な時間でした。勉強になりました。働いているYさんを見て嬉しく涙がでそうでした。(デイサービス勤務)

《Yさんのお母さんのお手紙》

皆さん好印象でした。正直、今までのワークホームが厳しい、暗い職場のイメージを持っておられる方が多かったので、保護者向け見学会をして頂けて嬉しかったです。行く度に進化しているワークホームが楽しみです。暑い中、真剣に働く利用者さんの顔がカッコよく素敵でした。Yも先輩の皆さんみたいに働く大人になって欲しいです。職員さん愛情を持って接して下さいありがとうございます。齋藤園長が話されていた「スキルのある指導者に支援して貰う事が大切」の意味がよくわかりました。

8月の予定

8月5日(水) 作業支援会議
8月12日(水) 清掃、工賃支給日
8月19日(水) 職員会議
8月26日(水) 学習会

※8月5日、8月19日、8月26日は15時終了です。
お迎えの方はお間違えのないよう、よろしくお願いします。

健康診断を行いました！！

7月18日、今回で二回目となる空腹時での健康診断を実施しました。保護者さんのご協力もあり全員朝食抜きで来所する事ができました！

初めてワークホームで健診を受ける利用者もおられ大丈夫かな?と心配していましたが採血時もジッとすることができ頑張っておられました。採血が苦手な利用者さんも少しだけ時間はかかりましたが、無事に終える事ができました。

今回の健康診断は新型コロナウイルス感染予防の為、3密を避ける配慮をした健康診断となりましたが、保健センター職員の方々と支援員の協力のもとスムーズに終える事ができました。なお、今回の検査結果を踏まえ、精密検査の必要性があれば病院受診やかかりつけ医への報告を宜しくお願い致します。(久木原)



今月の担当は錦でした。

新納豆作業場の名称

10月オープン予定の新納豆作業場の名前が決まりました。その名は、「納豆工房なっとこちゃん」。新名称とともに新しいロゴも決まりました。「地域社会という畑を愛情たっぷりのふっくら大豆納豆で耕し、福祉共生社会を創造する！」をコンセプトにロゴを作成しました。新ロゴは、商品のほか建物の看板や紙袋にも使用する予定です。これから「納豆工房なっとこちゃん」の顔としてたくさんの方に知っていただけたらと願っています。(矢野)

～「佐用もち大豆納豆」商品化へ！～

7月7日、佐用町役場に出向き、農林振興課の方たちと「作用もち大豆」納豆の商品化に向けての話し合いを持ちました。主に佐用もち大豆の特徴や仕入れ先、パッケージのロゴについての確認をしています。今後も佐用町の方の協力を得ながらより良い商品作りを進めていきますので商品化された際には、おいしい、もちもちした大豆の納豆を是非ご賞味下さい。(桂)



『納豆工房なっとこちゃん』に決定！

新しいロゴマーク

も決まる →→



納豆工房
なっとこちゃん

～「納豆工房なっとこちゃん」を見学～

7月15日、当日出勤していた職員全員で建設中の「納豆工房なっとこちゃん」の建物を見学しました。まだ建物は完成していませんが、すでに建物の中に入れる状態になっており、全員で広さや間取りの確認を行いました。完成は、10月の予定で急ピッチで工事が進んでいます。三井住友銀行曾根支店の側に大きな建物が姿を現しています。新しい作業場の2Fには、福祉アンテナショップを併設しますので是非遊びに来てください。(桂)



～換気扇を新しく設置～

夏本番になり、納豆作業場の温度と湿度が下がらずラベル貼り作業にも影響が出ていました。そこで、6月27日、現在の作業場に換気扇を新しく設置していただきました。空気を入れ替えることで以前よりも作業場の温度と湿度が早く下がるようになり、作業の効率化と「なっとこちゃん」の品質管理がしやすくなりました。(大谷)



夏の暑さを凌ぐうちわ作り

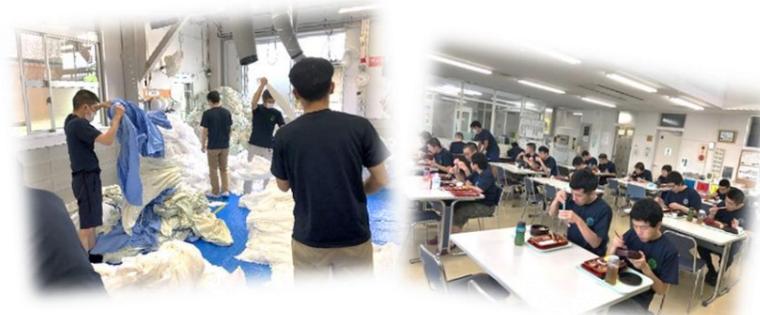
7月22日、夏の季節行事としてうちわ作りを実施しました。コロナウイルスの関係で余暇活動の実施が難しく、4月のお花見以来久しぶりの実施となりました。熱中症対策としては屋外での活動を避け、コロナウイルス対策としては納豆作業場・クリーニング作業場・食堂の3つのグループに分かれ、密を避けた状態での実施となりました。全員揃って実施できない寂しさはありましたが、それぞれの場所で楽しんでいる様子が見られ、次回もコロナウイルスに負けずに実施できるよう工夫していきたいと思ひます。(佐伯)



感染症対策のその後！

休憩時間の二部制を導入し、早くも5ヶ月が経とうとしています。皆さんこの体制にもすっかり慣れ、今では後に休憩する人が先に休憩する人に「休憩やで一。」と声を掛ける様子が見られます。二部制にしたことで、今まで休憩していた時間も作業をすることができ、より多くの作業をこなせるようになりました。

感染症がまだまだ猛威を振るっているため、引き続き感染症対策を続け元気に仕事ができるように気を付けていきたいと思ひます。(錦)



お楽しみメニュー復活！！

4月まではワークホーム高砂で盛り付けを行っていたお楽しみメニュー(カレー・丼もの系)。5月からは新型コロナウイルスの影響を受けてお楽しみメニューを中止していました。

この度、ひでかつ給食さんとの給食会議を行い、7月からお弁当箱の形でお楽しみメニューを復活することができました。お楽しみメニューを通じて、少しでもお昼の休憩が楽しい時間になればと願っています。(吉田)



月刊「ワークホームだより」 9月号

発行:2020年 8月 25日 発行者:ワークホーム高砂
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111
http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

まだまだ気を引き締めて ～新型コロナウイルスとの共存～

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。兵庫県でも新規感染者数が毎日のように増え、福祉サービス事業所でもクラスターが出ている。県内では、阪神間での感染者数が圧倒的に多いのだが、姫路など近辺でも新規感染者が出ているから用心しなければならない。

「緊急事態宣言を出さないように注視している」と政府はいうが、G o T oキャンペーンに代表されるように政策と呼びかけがなんだか陳腐に見える。出さないように注視するのは、「新型コロナ感染者」であって、「緊急事態宣言」ではない。大事なのは、感染を防ぐことであり緊急事態宣言を出さないことではないのに、なんだか安倍首相も「目的と手段」をあべこべに考えているのではと疑ってしまうのは僕だけだろうか。

もしも、ワークホームの利用者に感染者が出たらどうなるだろう。事業所の閉鎖は必至で、事業所を消毒するのに約2～3日、集団感染が発生していたら事業所再開の目途は立ちにくい。濃厚接触者を特定してPCR検査を行い、陽性者は隔離して治療を行い、陰性の人については、事業所閉鎖が解除されるまでは自宅待機が続くだろう。感染者が治療を終えてPCR検査で陰性となり、2週間の経過観察期間を経て普通の生活に戻るようになる。症状の程度にもよるが新型コロナウイルスに感染すれば、約1か月間は治療と経過観察に専念してもらうことになるだろう。重症の場合は、命そのものを守れるかが問題となる。

もしも、利用者本人ではなくご家族が感染したらどうだろうか。感染した家族は入院して治療に専念することになる。利用者も濃厚接触者としてPCR検査を受け、陰性であった場合には、普通に自宅での生活を行うが、支える家族が入院していた場合には、いったい誰が生活を支えるのだろうか。

先日、保護者会役員会で、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて本年度の保護者会行事を開催するかどうかの議論がなされた。そして、今の状況が続けば開催は難しいのではないかと意見が多数を占めた。利用者や家族の「安全」を確保しながら行事を実施するのは、難しいということ。「密集」「密閉」「密接」の「3密」を避けると同時に、食事の際の会話も避けることが安全確保には必要であるが、このことは、「バーベキュー大会やクリスマス会、研修会などを開催しないでください」ということに他ならない。

「インフルエンザウイルスは夏には収束するから、きっと新型コロナも収束するのでは」と、当ての無い期待を抱いていた今年の春。この期待もどこかに飛んで行った。そろそろ秋の気配であるが、新型コロナウイルスの感染拡大はいつにも収まらない。まだまだ気を引き締めて、「手洗い」「マスク」「うがい」「3密回避」「規則正しい生活とバランスのとれた食事による免疫力の維持・向上」など、新型コロナウイルスが傍にいても、「うつらない」「うつさない」「持ち込まない」努力を、一人ひとりが心がけるしかないのである。保護者の方をはじめ、関係各位のご協力を心からお願いしたい。



9月予定

- 2日(水) 作業支援会議
- 9日(水) 清掃日 工賃支給日
- 16日(水) 職員会議
- 23日(水) 行事企画
- 30日(水) 学習会

※9月2日、9月16日、9月30日は15時終了です。
お迎えの方は、お間違えの無いようによろしくお願ひします。

新型コロナウイルス感染対策【できる事から少しずつ】

東京だけでなく関西でも新型コロナウイルス患者が日に日に増加してきています。その現状を踏まえ感染拡大防止目的に、利用者や来所者の皆様に入所前検温を必ず施行してもらうように非接触性の体温計を玄関に設置しました。また、必ずマスクを着用してもらう事や、体調不良がある方の来所を控えてもらう事などを記載したポスターを作成し提示しています。ご不便をおかけしますが、保護者の皆様方にもご協力をお願いします。

(久木原)





『納豆工房なっとこちゃん』のオープン日決定！！

～10月19日(月)オープン！～

ついに納豆工房なっとこちゃんが10月19日(月)にオープンすることが決まりました。納豆工房なっとこちゃんは納豆の製造だけでなく、福祉のアンテナショップも同時に開設しますので、是非お気軽に足を運んで頂きたいと思っています。(桂)



納豆工房なっとこちゃん 営業許可申請へ！

8月13日、東播磨県民局へ納豆工房なっとこちゃんの営業許可・食品衛生責任者の登録申請へ行ってきました。9月30日には、保健所による現地調査を予定し営業開始に向け動き始めています。今後も、安全安心で美味しいなっとこちゃんをお届けできるよう衛生管理を意識し製造を続けていきたいと思いません。(吉田)

新ヘアキャップの導入

新納豆工場を HACCP 対応にするため、HACCP 対応可能なヘアネット・ヘアキャップへの変更を行いました。今まではヘアネットのみの使用でしたが、衛生面を考慮し、ヘアネットの上にさらにヘアキャップを被るスタイルに変更しました。新納豆工場の完成に向けてさらに良い状態で納豆が作れるよう準備しています。(矢野)



HACCP とは？

HACCP とは、食品等事業者自ら食中毒菌汚染や異物混入等を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの要因を除去又は低減させるために、特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法です。この手法は、国連 (FAO) と世界保健機関 (WHO) の合同機関である食品規格委員会から発表され、各国にその採用を推奨している国際的に認められたものです。(佐伯)



暑さに負けるな！～タオルの山に挑戦中～



今年は例年になく暑さのため、タオルや防水シートの出荷量も増えています。8月12日からは、毎朝GOTOの工場責任者と出荷量や作業の優先順位について2階事務所で打ち合わせを行い、一日のノルマを確認しながら取り組むことにしました。暑さのために、どうしても集中力が切れがちになりますが、GOTOの社員さんも含めて総力戦でこの夏を乗り越えて行きたいと思っています。まだまだ暑い日が続きそうですが、毎日、「今日もタオルの山を崩すぞ!」と、気合を入れて作業に取り組んでいます。(吉中)



あかりの家で奮闘

8月の1か月間、あかりの家で現場研修をさせてもらっています。実際の支援現場で毎日新鮮味がありあつという間に1日が過ぎていきます。最初は名前を覚えて、特性を理解してなど色々考えていましたが、いざ入ってみると1ヶ月という期間は余りに短くのんびり構えている暇はないと正直焦りました。自閉症の専門施設である、あかりの家の療育理念、療育技術を実際に見聞きし、何とか少しでも持ち帰りたいと日々奮闘しています。残り期間はあと僅かですが、繁忙期に出してくれたワークの職員、研修を受け入れて下さったあかりの家の職員に感謝しています。そして何よりも今後の利用者さんの生活のために実のある研修にしなければならないと思っています。



(楠)

第3回職員研修会を開催！！

7月29日に本年度3回目の職員学習会を開催しました。今回のテーマは「私の発見」で、吉中さん、矢野さん、吉田さんによる利用者支援を通しての新たな発見や感じた事を発表していただきました。



その中で、職員同士のコミュニケーションの大切さを再認識するとともに、職員主導で利用者支援をすることの意味や、利用者一人一人に分かりやすく伝えることの大切さなどを学び、改めて職員全員で考えることの意義を再確認しました。今後も学習会を通して、利用者支援とは何かを、職員が考え学んでいかなければならないと強く思いました。

(佐伯)



月刊「ワークホームだより」

10月号

発行:2020年9月25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

福祉アンテナショップの基本理念

ワークホーム高砂施設長 齋藤 克己

10月19日(月)に「納豆工房なっとこちゃん」と「福祉アンテナショップ」がいよいよスタートします。紆余曲折を経ながらも、スタートラインに立てることの喜びを今ひしひしと感じています。そして、多くの方々のご支援とご協力に感謝しながら、職員一同しっかりと前を向いて進んでいきたいと決意を新たにしています。

「納豆工房なっとこちゃん」の建物には、大きく二つの機能があります。一つは、納豆の製造場所としての機能です。これまでは、希望山荘日笠の一角に小さな納豆作業場があり、温度や湿度の管理が難しい作業環境の中で納豆製造を行っていました。しかし、「納豆工房なっとこちゃん」は、広々とした作業場を二つ設け、冷蔵倉庫やエアージャワーなどの新たな設備も設置しています。また、温湿度の管理もしやすくなり、何よりも利用者の作業環境が抜群に向上しました。利用者も職員も、この新しく充実した作業場で働ける日を楽しみにしています。

もう一つの機能は、初めて設置する「福祉アンテナショップ」という店舗機能です。年末年始を除いて無休で毎日10時から17時まで運営するこの店舗は、「納豆」(なっとこちゃん)の販売のほか、近隣の福祉事業所の生産品も販売します。スタートの段階では当法人の事業所を含めて8つの事業所の生産品を販売しますが、今後も広く福祉事業所に呼びかけ賛同者を得て商品の種類を増やしたいと考えています。なお、福祉アンテナショップの基本的な考え方については、次の2点を中心に広く障害者福祉の向上をめざしたいと考えていますので、関係各位、地域の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いします。

《納豆工房なっとこちゃん 福祉アンテナショップの基本理念》

- (1) 障害者就労支援事業などで利用者が生産に携わった物品等の販売を行うことにより、利用者の工賃向上と社会の障害者理解を広める啓発事業を目的とする。
- (2) 障害者就労・生産支援事業所間の連携を図り、切磋琢磨して互いの生産品のクオリティーを高めることや、広く障害者福祉の向上を「福祉アンテナショップ」の運営を通じて目指す。

準備着々!!

納豆工房
なっとこちゃん

9月17日、18日の両日、福祉アンテナショップ なっとこちゃん に出品していただける福祉事業所向けの説明会を実施しました。このアンテナショップは播磨・淡路地域の福祉事業所で生産・製造している商品を少しでも世間の方に知ってもらい障害者理解を深めてもらいたいとの思いで開設します。

なっとこちゃんはもちろんのこと、質の高い商品が多数ありますので是非お買い上げください。

10月予定

- 7日(水) 作業支援会議
- 14日(水) 工賃支給・清掃日
- 19日(月) 納豆工房 なっとこちゃんオープン
- 21日(水) 職員会議
- 25日(日) 納豆工房保護者内覧会
- 28日(水) 学習会

※10月7日、10月21日、10月28日は15時終了です。

お迎えの方は、お間違えの無いようによろしくお願ひします。

みんなで新納豆工房のチラシ配りしました

9月の季節行事は、利用者全員でオープン前の納豆工房へ見学に行きました。気候も少し涼しくなっていたので、歩いて新納豆工房まで行くことになり、その際に利用者みんなでオープンチラシを周辺地域にポスティングしました。利用者みんなで手分けして、頑張って約300枚配ることが出来ました。

チラシを直接受け取って下さる地域の方の中には、既に新納豆工房が出来る事を知っておられる方もあり、大変うれしく思うと同時に身の引き締まる思いがしました。オープンまでに一カ月をきりましたが、「納豆工房なっとこちゃん」の名前が知れ渡るよう頑張っていきたいと思ひます。

(佐伯)



高島屋オンラインにて販売



今回、佐用もち大豆の販売元であるJA兵庫西様より高島屋オンラインのGI特産品展のご紹介をいただき出品することとなりました。

GIとは農林水産省が認める「地理的表示保護制度」です。この度取り扱う事になった佐用もち大豆がGI登録されていたので出品する運びとなりました。

今月の担当は楠でした。



納豆工房 なっとこちゃん

2020年10月19日(月曜日) 13:00 OPEN



今回は納豆工房 **なっとこちゃん** OPEN記念特集としまして、一足先に施設と店舗をご紹介しますと思います。

まずは**外観**です。茶色と白を基調とし、なっとこちゃんのロゴがアクセントになっています(①②)。続いて**駐車場**へと回ってみたいと思います。お客様用駐車場が完備され車でもお越しいただきやすいようになっています(③)。



駐車場から南に進むと**店舗兼施設の入り口**が見えてきます。入り口にはもちろん **なっとこちゃん** のロゴがお出迎えしてくれます(④)。玄関を入ると明るい雰囲気の**エントランスホール**です。2階へはここからエレベーターもしくは階段でお上がりください(⑤)。



次は**1階**の納豆工房を紹介します。爽やかなブルーの壁紙で区切られた一角が利用者さんが使う**トイレ**です(⑥)。これまでワークホームに無かった**処理室**も完備しています(⑦)。



部屋続きの先は納豆作業の為に着替える**更衣室**となっています。こちらにもブルーをアクセントに清潔感のある作りになっています(⑧)。ここで着替えを済ませて工房に入るのですが、**エアシャワー**で体の汚れを綺麗に落とします(⑨)。綺麗になったところで早速工房をのぞいてみましょう。豆などの原材料を冷蔵保存する**プレハブ冷蔵室**です(⑩)。部屋自体が冷蔵庫となっています。次は豆を洗う**洗浄室**、豆を炊く**蒸煮室**へと続いていきます(⑪)。



炊きあがった大豆は**作業室1**へと運ばれます。ここでカップへの充填作業が行われ、発酵機へと入ります(⑫)。発酵が完了した大豆は**作業室2**でラベルを貼り、製品なっとこちゃんが完成(⑬)。なっとこちゃん**冷蔵室**で熟成し出荷の時を待ちます(⑭)。



さあ！お待ちかねの**福祉アンテナショップ なっとこちゃん** を見に行きましょう。玄関から階段を登ると見えてきました。納豆工房 **なっとこちゃん** の入り口です。重厚で高級感溢れる扉がお待ちかねです。扉を抜けると明るく清潔感のある店舗へと入ります。東側の窓から曾根の町並みが一望できる絶好のロケーションとなっています(⑮⑯⑰)。



2階には利用者さんが食事をする**食堂兼休憩室**、**厨房**があります(⑱)。食堂の一角には**多目的使用が可能な個室**も2室設けています(⑲)。これで納豆工房 **なっとこちゃん** の紹介を終わります。オープン時にはお越しをお待ちしております。



納豆工房 **なっとこちゃん** インフォメーション

納豆工房 **なっとこちゃん** では、オープン記念といたしまして、か月間1日先着50名様になっとこちゃん限定パッケージをプレゼントします。ちらしの引換券をご持参ください。



また、ポイントカードの運用も予定していますので是非、ご活用ください。



月刊「ワークホームだより」11月号

発行:2020年 10月 27日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

新型コロナ禍の中でのオープン

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

10月19日、関係者の深いご理解とご協力のもと「納豆工房なっところちゃん」が高砂市曾根町にオープンいたしました。新型コロナウイルスが世界中で猛威をふるうなか、中国からの資材が届かず建築工事が遅滞するなど、開設までには多くの困難がありました。しかし、関係者のご努力により、無事に10月中のオープンが実現しました。関係者の皆様方には深く感謝申し上げます。

ところで、新型コロナウイルスの影響は、工事だけではなくありません。利用者が楽しみにしていた泊旅行やバーベキュー大会、冬のクリスマス・忘年会もすべて中止となりました。「新型コロナは人から人へと感染する」という特性を踏まえて、人が集うことを禁止してきた結果、多くの行事を中止せざるを得なくなったのです。

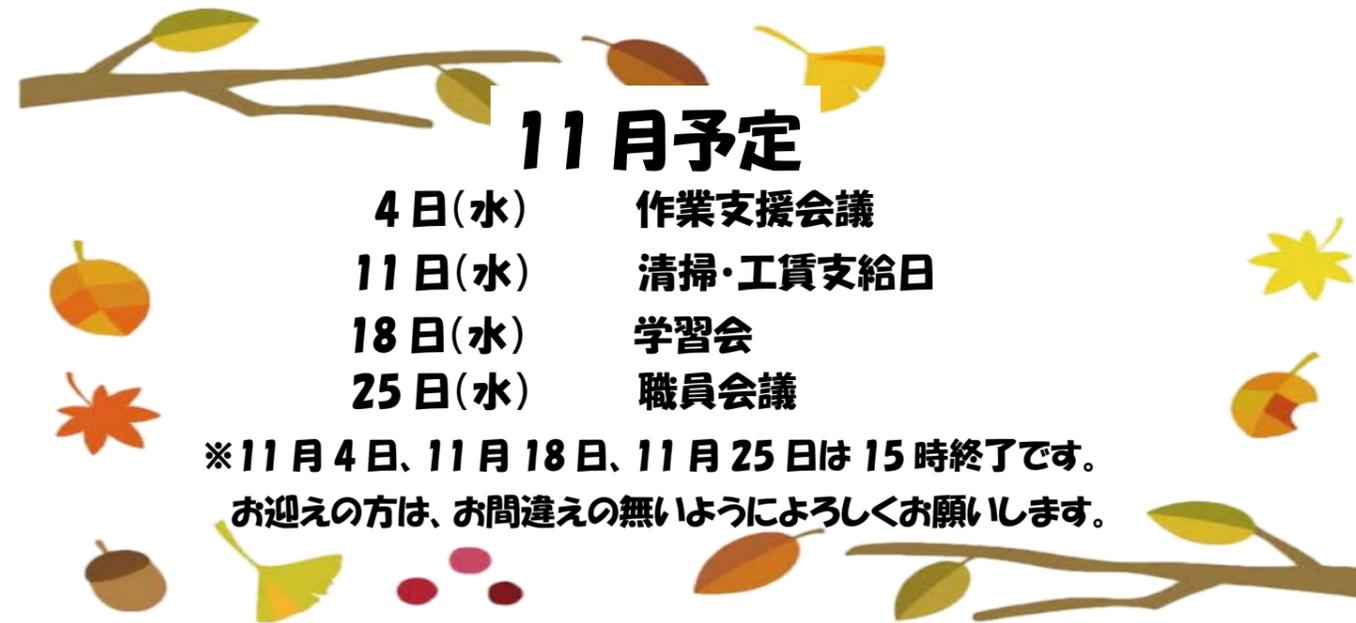
しかし、新型コロナの影響は、単に「楽しみがなくなった」というだけではありません。多くの方が指摘するように、人と人の絆を断ち切ることになるのではないかとということです。「人は『人』と『人』との中で人になり成長する」という人間発達の大前提を崩してしまうのではないかと懸念です。そもそも「社会性の獲得・発達」は、人が作る社会の中でこそ育つものであり、社会ルールは、多くの人々が集団で混乱なく暮らすために必要なものなのです。ですから、人が集わないことを前提とすれば、社会的ルールが崩れたり、必要が無くなったりするわけで、そうした状況を前提とした「社会性」は、これまでの内容と変わるであろうと予想されるのです。そしてその社会ルールの変化が、人々の社会性の発達にどのような影響を与えるのか危惧するのです。

ワークホームでは、「仕事は決められたルールを守りながらすること」を中心に置いて利用者に話すようにしています。また、「働く仲間を大切にすること」というワークホームの核となる理念も人が集うからこそ必要なわけで、個々人が切り離された状況では「人を大切にすること」も育ちにくのではないかと心配しています。

幸いなことにワークホームは、コロナ禍の中でも一日も休まずに仕事を続けてきました。新型コロナ禍が去った後も、しっかりと人と人との交流と絆が保たれるよう意識しておきたいと思えます。

保護者会主催 納豆工房なっところちゃん内覧会

10月25日、納豆工房なっところちゃんの保護者内覧会が開催されました。今回はコロナ感染防止対策として3グループに分けて行いました。保護者さん、利用者さん合わせて44名の方にご参加いただきました。1階の納豆生産工場に続いて2階の休憩室、店舗を見ていただき、とても綺麗で衛生的との感想をいただきました。当日ご参加いただいた保護者の方、大変お忙しい中を時間をさいくださりありがとうございました。(楠)



11月予定

4日(水) 作業支援会議

11日(水) 清掃・工賃支給日

18日(水) 学習会

25日(水) 職員会議

※11月4日、11月18日、11月25日は15時終了です。
お迎えの方は、お間違えの無いようよろしくお願いします。

～新型コロナウイルス対策～

食堂にアクリル板設置

新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、昼食場面では一方向を向いての食事摂取に取り組んできました。また、それに加えて飛沫感染予防の為、各食堂テーブルにアクリルパーティションをこのたび設置しました。そして、食事が終わればすぐに新しいマスクの着用を行ってもらい、手指アルコール消毒も継続しています。これらの対策は新型コロナウイルスに加え、今後流行が予想されるインフルエンザや風邪症候群への対策にもなります。少しでも早く新型コロナウイルスに対して有用かつ安全なワクチンや薬が認証・発売されることを願っています。(久木原)



— クリーニング 新たな機械の導入に向けて —

10月6日に、香川県高松市のクリーニング機械メーカーであるプレックスさんに長谷川副施設長、岡本さん(GOTO)の3名でタオルフォルダーの見学に行ってきました。プレックスさんは近隣のリネンサプライ業者のトーカイさんとタイアップしていて、実際のクリーニング生産現場で機械を見ることができました。今回の視察の目的は、ワークホーム高砂へのタオルフォルダー導入です。ワークホームとしては機械を導入する事で利用者さんが苦手とする判断をAIに担保してもらい、温暖化による作業環境の悪化や利用者さんの高齢化に伴うパフォーマンスの低下を補うために生産数の安定を機械に担保してもらおうという考え方で導入を検討しています。これを足掛かりにして安定した工賃財源確保と作業の省力化を進めていきたいと思えます。(楠)

— 虐待防止研修に参加しました —

10月22日、齋藤施設長、佐伯、錦の3名で高砂ユーアイ帆っとセンターにて開かれた高砂市主催の虐待防止研修に参加しました。弁護士の三好登志行先生の指導の下、虐待とはどういう状況下で起こりやすいのか、どのような行為が虐待に当たるのかを学ぶことができました。また、他事業所の方とグループワークを行い、支援員のどのような言動や行動が虐待に当たるのかについて意見交換しました。意見交換を通して改めて普段行っている支援について深く考えることができました。これからも一層気を引き締めて利用者支援を行っていかねばならないと考えさせられた貴重な時間でした。(錦)

今月の担当は大谷でした。



納豆工房

なっとこちゃん

10月19日OPENしました!!

オープニングセレモニー

10月19日10時からオープニングセレモニーが行われました。理事長をはじめ、来賓の方や報道関係の方には感染症対策のご協力をいただきながら、久木原看護師の司会進行で滞りなく開催することができました。

利用者を代表して、今津香苗さんが力強く「安全で美味しい納豆が作れるように、一生懸命頑張りたい」と力強く決意表明してくれました。また、テープカットでは利用者を代表して金谷明朝さんが慣れない手つきで、大谷支援員が付き添いテープカットをしてくださいました。

お忙しい中来てくださった高砂市福祉部長北野様、あかりの家後援会長柿木様、ワークホーム高砂保護者会長藤野様、河田建設株式会社代表取締役河田様、本当にありがとうございました。新しくなった作業場で利用者、職員が一丸となって安全で美味しい納豆作りをこれからも取り組んでいきたいと思ひます。(吉田)



来賓の方向け内覧会



10月19日のオープニングセレモニー後にの後、参加して頂いた理事長を初め報道関係者に内覧会を実施し、最新のエアシャワー体験や各作業室、製品管理、原材料など“なっとこちゃん”を作るすべての流れを説明させて頂きました。

納豆工房は障害者理解の社会啓発の場でもあります。これからは沢山の方々に見学に来ていただき、実際に利用者が働き納豆を作っているところを見ていただければと思ひます。(桂)

これからも皆さんに喜んでもらえる納豆を頑張って作ります！
応援をお願いします。



福祉アンテナショップ

10月19日13時から福祉アンテナショップがオープンしました。店舗に入って正面にショーケースがあり5種類の納豆が並んでいます。また、納豆だけではなく近隣の福祉施設のお弁当や焼き菓子、雑貨など、それぞれの施設で一押しのもも置いています。

店舗奥のホワイトボードには、NEWSや週替わりで各事業所さんの紹介もすることにしています。オープン初日には、近隣の方をはじめ、多くの方にご来店いただき、読売新聞、神戸新聞、高砂経済新聞に掲載されたことにより連日納豆の品切れが続きました。

新たな試みとしてSNS (Facebook、Instagram) も始めましたので良ければ検索をお願いします。(大谷)



約30年ありがとう、希望山荘納豆作業所

10月17日、グループホーム希望山荘日笠の横にあった「納豆作業所」から「納豆工房なっとこちゃん」への機器移設が行われました。あいにくの雨でしたが、業者の方をはじめ様々な方にご協力いただき、大きな発酵機や冷蔵庫、その他こまごました物も無事に運び終える事ができました。約30年間納豆づくりを支えてくれた作業場から広く綺麗になった作業場で新たな納豆作りを頑張っていきたいと思ひます。長い間本当にありがとうございました。(矢野)



YAMADA STOER 新辻井店

10月23日から姫路市のヤマダストア新辻井店への納品を開始しました!

これでヤマダストア全店舗でなっとこちゃんの購入が可能になりました。お近くのヤマダストアに行った際には、なっとこちゃんのご購入を宜しくお祈ひします。(桂)



月刊「ワークホームだより」 12月号

発行:2020年 11月 24日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



医療関連サービスマーク認定審査を終えて

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

11月17日、3年に1度の「医療関連サービスマーク」更新のためのヒアリングがワークホーム高砂で実施され、楠主任支援員と吉中支援員が中心となって対応してくれた。ヒアリングと現場確認の後に西村事務局長(病院寝具協会近畿支部)の講評があったが、その内容からは、概ね認証の更新は大丈夫だろうとの感触を得ている。正式には、後日、認定証が届く予定である。

そもそも「医療関連サービスマーク」というのは、厚労省が定める基準に適合する優良事業者を証明するもので、ワークホームは開設以来この認証を取得し続けている。今回は、私が施設長になって3回目のヒアリングであり、1回目のヒアリングは宮本副主任が中心事務を担い、2回目と今回は楠主任が担ってくれた。この二人は、「クリーニング師」と「病院寝具管理士」の専門資格も取得していて、これまでのクリーニング事業はこの二人を中心に進めてきている。

ワークホームは、利用者支援の専門知識と療育技術に加えて、クリーニングに関する専門知識が求められる。福祉を目指してやってきた多くの職員が、「私は障害者支援のために福祉を選んだのに、毎日クリーニング作業ばかりで・・・」との素朴な疑問を抱く。彼ら二人もそうだったに違いないのだが、今ではその疑問を乗り越えて、クリーニングの専門家と障害者支援の専門家の二足の草鞋の重要性を認識してくれたと信じている。そして、今後は、自らの経験を次の世代に引き継ぎ、職員育成を担ってほしいと願っている。このことは、納豆事業の推進でも全く同じことがいえる。

ところで、この認証マークの更新は、ワークホームがGOTOさんとの事業連携をするためには絶対に必要なものであり、利用者の工賃財源を安定的に確保するためには避けて通れないものである。というのも、先月オープンした「納豆工房なっとこちゃん」の売り上げがいくら順調に伸びているとはいえ、まだまだ利用者の工賃を安定的に支給するまでには至っていないからである。

「利用者の月額工賃をなんとか6万円にしたい!」。簡単なことではないが、これがワークホームの掲げる目標である。障害者が社会で自立した生活を営むための必要最低限の収入として、この金額は必要なのである。「障害者年金6万円+工賃6万円の生活」と聞くと、なんと貧しいことかと思うが、グループホームでの生活を見ていると贅沢は出来ないがそれなりの暮らしは出来るのではないかと思う。

利用者の充実した暮らしを保障するためにも、今後ともクリーニング事業と納豆製造・販売事業を上手に組み合わせながら、利用者の高い工賃を目指し続けたいと考えている。

12月の予定

12月2日(水) 作業班会議
12月9日(水) 清掃・工賃支給日
12月16日(水) 学習会
12月23日(水) 作業日・季節行事
12月29日(火) 仕事納め

※2日、16日は15時終わりになります。

※23日については17時まで作業を行います。

※年末年始は12月30日~1月3日までお休みになります。

1月4日(月) 仕事初め・全員出勤
1月9日(土) 全員出勤

※4日、9日は利用者全員出勤になります。

新任パート紹介

新しい仲間が増えました!!!

納豆工房の立ち上げに伴い、新しくパート職員さんが来てくれています。新たな仲間を迎えてみんなでワークホームを盛り上げて行きたいと思います。3人に自己紹介をお願いします。



名前:重吉 美和子さん
(しげよし みわこ)
(クリーニング班)
始めまして、私、重吉と申します。
11月16日より働かせていただいています。皆様に気に行き届く様に頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



名前:高谷 美穂さん
(たかたに みほ)
(納豆班)
11月1日より納豆工房の清掃、アンテナショップを主に入ることになりました。クリーニングの利用者さんとは接点がないと思いますがよろしくお願いします。



名前:常峰 真紀子さん
(つねみね まきこ)
(納豆班)
11月3日より納豆工房の配達を担当することになりました。皆さんと仲良くできれば嬉しいです。これからよろしくお願いします。

今月の担当者は吉中でした。

利用者の成長！！

～最近のクリーニング班について～

10月19日から新納豆工房がオープンし、クリーニングの人数が少なくなりました。そのため、「作業進捗が遅れるのではないかと、進捗が遅れて手がつけられなくなるのではないかと」と心配しましたが、利用者の頑張りもあり、例年通りの生産量となっています。

この1ヶ月は、私が思っていた以上にできる利用者が多くいたこと、作業効率が上がったこと、職員間での情報共有が円滑に進むようになったことは本当に驚きでした。課題はまだ山積みですが、職員間のコミュニケーションを円滑に行い、これからも気を抜かずがんばっていききたいと思います。(吉中)



重要な一日に！！

3年に一度の医療関連サービスマーク調査

11月17日、医療関連サービスマークの認定調査が行われました。医療関連サービスマークの認定については9月に書類審査が行われ、今回、病院寝具協会の西村事務局長様と近畿支部役員の相野様の2名がワークホームに来られ、書類の確認と実際の現場を見ていただきました。ワークにとって大変重要な1日を無事に終えることができ、他の職員さんやGOTOさんの協力に感謝しています。(楠)

OPENから約1ヶ月

新納豆工房・福祉アンテナショップ1か月を終えて！！

納豆工房なっとこちゃんと福祉アンテナショップがオープンして早1ヵ月が過ぎました。納豆づくりの作業に関しては、徐々に作業環境に慣れ始め、生産量を増やしながら安定的に作業を進めることができています。また、HACCPの手法を導入し、製造から販売までの工程を継続的に管理出来るようにもなりました。

福祉アンテナショップでは、自分たちが作った納豆をお客様にダイレクトに販売する事で、お客様の生の声を聴くことができ、笑顔で帰って頂く姿を見ながら買って下さる喜びを味わっています。また、他事業所の商品を置いていただくことで、他事業所との距離が近くなり、各事業者同士の情報交換や交流が持てるようになりました。

これからも、より安全でより美味しい納豆をみなさんに提供できるように精進するとともに、福祉アンテナショップが福祉業界のコミュニティーの場所になれば嬉しいと思っています。(桂)



新たな風を！！

東はりま特別支援学校から見学に！

11月10日、東はりま特別支援学校高等部1年生の方々が見学に来られました。当日は楠主任による講話、吉中支援員と宮本によるクリーニング作業場の説明を行いました。作業場では、実際にシーツの投入作業や防水シーツのたたみ作業を体験してもらいました。みなさん、機械の迫力に驚かれながらも一生懸命体験されていました。短い時間でしたが、ワークホーム高砂を知ってもらうことができたのではないかと思います。今後もこういった機会を通して、「働く」ことの楽しさを伝えていきたいと思っています。(宮本)



実習生を迎えて・・・

11月16日から20日までの5日間、東はりま特別支援学校の実習生を受け入れました。実習をとおして働くことの楽しさや社会人になるための準備ができれば幸いだと感じました。また、出来なかったことが出来た時の喜びや仕事をやり遂げた達成感など、良い経験になったのではないかと思います。

特に驚いたのは、実習生を受け入れた際の利用者の仕事ぶりでした。利用者の先輩意識が高くなり、いつもより良い表情で作業に取り組んでいる姿が見られ、時にはこのような新しいことを取り入れることで利用者にとっては良い刺激になり、次のステップへの機会になるのではないかと思います。(吉中)



食品衛生監視現地調査を受けました

10月30日、新しい納豆作業場の開始から約2週間が経過したタイミングで、県保健所による食品衛生監視の現地調査を受けました。今回は事前連絡のない抜き打ちの調査でした。

食品衛生監視では、①構造 ②食品取扱設備 ③給水・汚物処理 ④管理運営 ⑤食品取扱者の大きく分けて5つの項目で検査を受け、全ての項目で基準点を満たすことができました。今後も、衛生的な環境を保ちながら安心・安全な「なっとこちゃん」をお客様に提供して行きたいと思っています。(吉田)



高砂市給食にチャレンジ

11月18日、「なっとこちゃん」を高砂市の学校給食に使ってもらうため、「令和3年度高砂市学校給食会指定納入業者登録審査」に初めて申請を行いました。高砂市役所の担当者のお話では、現在、高砂市の学校給食においては納豆使用の前例がないとのこと。これからは、学校給食にも「なっとこちゃん」の納豆を提供していただけるよう、品質向上にむけて努力したいと思います。(吉田)